

心込めてマスク手縫い

色麻町地域活動 支援センター 個人向け販売も検討

新型コロナウイルス感染症によるマスク不足の中、色麻町地域活動支援センター「ゆうゆう」の職員と障害者たちが、手縫いのマスク作りに励んでいる。

市販品が入手困難となり、自給自足しようと3月下旬に作り始めた。もともと障害者自立支援で縫製を手がける同施設。出来栄の良さが評判を呼び、施設を運営する町社会福祉協議会から注文が舞いこむようになった。

顔にフィットする形の立体マスク。花柄、水玉模様、ストライプなど多彩なデザインの生地をあしらひ、内側にはガーゼを縫いつけた。洗って繰り返し使えるのも特徴。大中小と幼児用の計4サイズあり、いずれも1枚300円(2枚組500円)と価格も手ごろ。

さまざまな障害を抱える施設利用者が職員との役割分担で作業しているため、丸一日で仕上げられるのは50枚前後が精いっぱい。マスク用ゴムひもの品薄にも悩む。それでも連日届く注文に応えようと作業内容を工夫したり、材料仕入れに駆け

回ったりと懸命だ。ミシンの音が響く作業室で、マスクが少しずつ完成していく。早

坂和子施設長は「みんな頑張りたい」と話す。なが困っているときだからこそ、より多くの人の手に行き渡るように(25) 6163。



大きく、柄ともに豊富な手縫いのマスク